

# 編 集 後 記

「海の日」という国民休日は、今すでに大人になっている人たちの子ども時代にはありませんでした。これから、夏休みの入り口頃の季語になつていくのでしょうか。

夏休みを心待ちに待ったのはいつ頃からだったでしょう。子ども心にはつきりと夏休みを意識して楽しみにするのは小学校以上で、幼児期は少し違うかもしれません。保育所には、夏休みがない子どももいます。周囲の友達が休みがちになつたり、先生が長い休みをとつたり、来る日も来る日もプールだったりの、なんとなく普段とは違う期間です。ひと月以上お休みの幼稚園児にとって

も、いつのまにか夏休みだった、というような、学童期とは違う迎え方をしていたような気がします。

時間の流れや季節の受けとめ方が大人の常識的な仕方と違うので、どこかあいまいで茫漠としている印象がありますが、だからといって移ろいやすいとか脆いというものではないということ。逆に永遠にも近い深さで刻み込まれるということを、金田先生の幼稚園時代の回想に見ました。時間的にはほんの短い時間の苦しい思い出が、今でも先生の心を揺さぶり続け、その保育研究の原点になりえているということが恐ろしいようでもありました。このような苦しい体験は今もあちらこちらで繰り返されてはいるはずですが、忘れることで人は幼児期の経験をなかつたことのできるのでしょうか。(浜口)

## 幼児の教育

第一〇四巻 第七号

(二〇〇五年七月号)

定価五五〇円(本体五二四円)

発行 平成十七年七月一日

編集兼発行人 浜口順子

発行所 日本幼稚園協会

〒112-8600 東京都文京区大塚二-1-1

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108-8620 東京都港区三田五-1-1

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113-8611 東京都文京区本駒込

六一-一四-九

☎〇三-五三-九五-一六六一三(営業)

☎〇三-五三-九五-一六六〇四(編集)

振替 〇〇-一九〇-1-1-一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所「フレーベル館」にお願いいたします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。